

国際医療福祉大学病院神経内科

2017年は、加藤が栃木に赴任して、早いもので、もう15年目の年となりました。神経内科の常勤メンバーは加藤宏之（神経内科部長・神経難病センター長・医学部教授）、橋本律夫（神経難病部長・医学部教授）、小川朋子（神経内科副部長・病院准教授）、田川朝子（神経内科医長・病院准教授）、大塚美恵子（病院教授）、鈴木智大（後期研修医）の常勤医6人で活動しました。しかし、本年1月に田川が退職したので、残念ながら戦力ダウンで新しい年を迎えました。

2017年も当科は神経難病センターを中心に活動しました。神経難病が入院患者の3分の2を占めます。当院は栃木県神経難病ネットワークの県北基幹病院であり、神経難病専門員、相談員が配置されています。神経難病の初期診断から外来治療、在宅療養＋定期レスパイト入院を中心とした長期療養、さらに、合併症の治療から終末期医療まで、リハビリ、MSW、訪問看護など豊富なコメディカルスタッフとともに、初診から看取りまですべてのステージにおいて一貫したチーム医療を地域で提供することを継続しています。

研究面では、科研費の支援で仙台中江病院とのMRIを用いた共同研究も14年目となりました。現在の研究課題は「錐体路トラクトグラフィを用いた脳卒中後の片麻痺の予後予測法の開発」です。

昨年、本学に医学部が開設されました。昨年は、成田まで学生実習に駆り出されましたが、今年は神経内科の講義（英語）が始まります。本学は附属病院が6つあるので、医学部神経内科の教授が7人もいます。主任教授の村井先生は大変そうですが、できる範囲でお手伝いをするつもりでおります。

末筆になりましたが、青木先生を始め、医局の先生方には、今後ともこれまでも増して厚いご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（神経内科部長 加藤宏之）

2017年のデータ

外来患者数 14,747人

退院患者数 588人（急性期脳卒中 76、神経難病 393、その他 119）

剖検数 2例（ALS、若年者の意識障害と突然死）

論文・総説その他の数 3編（英文1編、邦文1編、単行本1編）

学会発表数 国際3件、国内4件

研究会・講演会発表回数 2件

助成金数 2件

写真の脚注

2017年10月、ハロウィーン回診

前列左より、鈴木、田川、小川、後列左より、橋本、加藤、NS

